



No.140
2021.11.29
兵庫県立神戸商業高校
図書館
新着図書紹介

今年最後の仕上げに何をしますか？

今年もあと1か月余り。やり残したことがありませんか？
中にやり遂げたいことはありませんか？

予定や目標を達成し、時間に余裕がある人はぜひ本を読みましょう！今年最後の1冊を県商図書館へ探しに来てください。



『他者の靴を履くーアナーキック・エンパシーのすすめ』

フレイティ みかこ【著】

「エンパシーとは何か？」という学校のテスト問題に著者の息子が出した答えは「自分で誰かの靴を履いてみる」というものだった。エンパシーは意見や関心の合わない他者であっても、その人の感情や経験などを理解しようと自発的に習得する能力のことなので、なるほどの確かな表現である。

『無理ゲー社会』

橋 玲【著】

きらびやかな世界のなかで、「社会的・経済的に成功し、評判と性愛を獲得する」という困難なゲーム(無理ゲー)をたった一人で攻略しなければならない。これが「自分らしく生きる」リベラルな社会のルールだ。

『森の日本史』

黒瀧 秀久【著】

世界有数の林野率を擁する一方、衰退して危機的な状況にある日本の林業。森林と共生した古代から、城郭、都市建設のための森林伐採拡大、植林技術の広がり、現代の環境共生まで、日本人と森林の関係を丹念にたどる。

『AIの時代を生きる』

ー未来をデザインする創造力と共感力』

永野 裕之【著】

AIの存在感が増し、便利な暮らしへの期待や憧れが高まる一方で、仕事を奪われる不安に揺れる現代人。「創造力」と「共感力」をキーワードに語る一冊。

『みとりねこ』

有川 ひろ【著】

稀代のストーリーテラーが綴る7編、7匹の物語。時間は有限。出逢いは無限。きっとあなたの宝物になる。猫とあなたの7つの物語。

『世界ピクト図鑑ーサインデザイナーが集めた世界のピクトグラム』

児山 啓一【著】

世界26か国80都市のピクトグラム約1000点の写真を収録した図鑑。駅や空港のサインデザイナーである著者が世界で撮影したピクトグラムの写真を項目別、国別に分類し、わかりやすく解説。イタリアのスリ注意やタイの僧侶用優先席の表示など、その国らしいピクトグラムも登場。



『民王 シベリアの陰謀』

池井戸 潤【著】

人を凶暴化させる謎のウイルスに、マドンナこと高西麗子環境大臣が感染した。止まらぬ感染拡大、陰謀論者の台頭で危機に陥った第二次武藤泰山内閣。ウイルスはどこからやってきたのか？泰山は国民を救うべく息子の翔、秘書の貝原とともに見えぬ敵に立ち向かう。『民王』待望の続編！

『透明な螺旋』

東野 圭吾【著】

シリーズ第十弾。最新長編。今、明かされる「ガリレオの真実」。「愛する人を守ることは罪なのか」ガリレオシリーズ最大の秘密が明かされる。

『余命3000文字』

村崎 羯諦【著】

「小説家になろう」発、年間純文学「文芸」ランキング第一位獲得作品の書籍化。朝読、通勤、就寝前、すき間読書を彩る作品集。泣き、笑い、そしてやってくるどんでん返し。書き下ろしを含む二十六編を収録！



『百人一首 解剖図鑑』

谷 知子【著】

『小倉百人一首』の歌を覚えている人も結構いると思いますが、誰が詠んで、どんな内容なのかまで知っている人は意外と少ないのでは。そこで歌の内容が一目で分かるよう上の句、下の句をそれぞれイラストで解説しています。天皇中心の律令制から、摂関政治、院政、武家政治と権力の流れも理解できます。もちろん当時の人々の暮らしぶりも歌から読み取っていきます。

【その他の新着図書】

現代用語の基礎知識 〈2022年版〉	自由国民社	言語
文藝春秋オピニオン 2022年の論点100	文藝春秋	社会 科学
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 〈2〉	プレイティ みかこ	社会学
ここは負けても死なないテーマパーク	エミリン	哲学
硝子の塔の殺人	知念 実希人	文学
ペッパーズ・ゴースト	伊坂 幸太郎	文学

沈黙のパレード	東野 圭吾	文学
薬屋のひとりごと 〈10〉〈11〉	日向 夏	文学
僕のヒーローアカデミア雄英白書 桜 - 泣かない赤鬼？	堀越耕平/ 誉司アンリ	文学
夏目友人帳 〈第11～15巻〉	緑川 ゆき	コミックス
SPY×FAMILY 〈8〉	遠藤 達哉	コミックス

▣ぶらり選書 2学年 金吉先生

タイトル

『世界の今を読み解く「政治思想マトリックス」』

茂木 誠 著

〈PHP研究所〉

世の中に完全に満足している人、不満が全くない人はおそらくいないはず。しかし、ただ不満をたれているだけでは何も変わりません。日本のように選挙が行われ、言論の自由が認められている国においては、暴力ではなく投票や世論の圧力が世の中を変える方法になります。しかし、近年の国政選挙の投票率は50%前後と低迷気味。つまり不満を抱えていても半分近くの人が、歩いて5分の投票所に行くことをめんどくさがり投票を放棄しているのです。

しかし、個人的にはこれは単に政治に関心が無い、投票所に行くのが面倒臭いという理由だけでなく、そもそも政治について「知らない、分からない」からどの政党や候補者に投票すれば自分の求める政治をやってくれるのかが分からない、というのが背景にあるように感じます。投票に行った人の中にも、候補者が主張する政策の中身ではなく「いい人そう、さわやかだから、何かやってくれそう」というただの印象で投票している人も少なからずいるでしょう。

本書はそんな人が基本的な政治用語（右翼、左翼、保守、リベラルなど）から日本の政治（自民党ってなに？立憲民主党の政策ってどんなもの？など）、世界各国の政治についてまず「知る」ための入門書として分かりやすく面白いのではないかと思います。

「知は力なり」、知らなかったことを知ることで考えや価値観が変わり、行動が変わる。できることが増え、賢い判断と選択ができる。一人一人が変われば社会が変わる、日本が変わる。来年の参議院選までには是非読んでみてください。